

天津市立自然博物館を訪ねて

相坂 耕作

はじめに

筆者は以前、中国上海市の上海自然博物館の昆虫コーナーを訪れたことがあり、それについては当会の20周年特別号（遊蟲千年）に紹介したことがある。それに引き続き、今回、本年2月に天津市立自然博物館を訪問する機会があったので誌上にて紹介しながら紀行文を書いてみた。天津は北京、上海と並ぶ中央直轄市であり中国第3の大都市である。天津という名は、明の時代に北京の永楽帝が、天津で河を渡って南下し、皇帝になったことにつながる。天子が渡った津であることから天津と言われるようになったという。近代になると天津は戦争や革命の渦にのまれ激動の時代を迎えたのはよく知られた事実である。今回の訪中も前の北京と同じく春節（旧正月）の当日となってしまう。

2月13日 早朝起床し、家内と共に新幹線の姫路駅まで娘に車で送ってもらい天津の旅のはじまりとなった。この天津行きの日程は僅か3日間である。あるツアーで、天津3日フリーというのがあり参加したのである。通常、観光で天津へいくのは北京から天津へのツアーのオプションにて参加するのが簡単であるが、自由時間が少ない不便さがある。そこで前回、天津で十分な街歩きができなかったのが、今回、天津市だけに当てることにした。

関西空港から一路天津の空港に着いたが、現地案内人が直ぐに見つからず少々不安だったが、やがて合流、何とこのツアーは我々2名だけだと気がついた。こんなに広く募集しているのに関わらず天津は余り人気がないのだろうか。案内人の女性と送迎人の運転手氏に聞くところによると、天津への観光ツアーは大変少ないとのことである。宿泊ホテルへ行くまでに天津タワーや水上公園を案内するというので、出来たら昨年行ったのでホテルへ直行か、または凧探しをお願いしたいと申し入れたら、有名な天津楊柳青へつれていってくれた。楊柳青の年画は17世紀からあったと言う有名なもので、春節を祝う際に、新年の豊作と商売繁盛を祈って門口や室内に飾られる版画のことで、現地の方にも結構人気がある。いろんな資料を買い込んだのち宿泊ホテルに送迎してくれた。ホテルは利順徳大飯店（アスターホテル）といい、天津

ではかなり高級ホテルらしい。このホテルに泊まった客や歴史が壁に展示されていた。例えばアメリカのフーバー大統領、孫文、清代のラストエンペラー愛新覚羅溥儀など世界の要人が泊まったという。飾り物として、エジソンの電球、蓄音機などとともに中国最古のエレベーターも置いてあった。こんな豪華なホテルに泊まれるのもシーズンオフとビジネス客が大半で観光客の少ない天津市だからであろう。天津市は神戸市と姉妹都市友好であり、神戸は有名であると聞かすが、地震に関しては無知なのか知らない人が多いようだ。案内人に明日のスケジュールを伝え、前面協力してもらえようになり車も調達できた。明日を楽しみに早く就寝した。

2月14日 予約していたチャーター車は朝一番迎えてきてくれた。8時にホテルを出発。運転は昨日の人であり何かとよかった。約1時間で天津郊外の楊柳青村に到着した。前日訪れた店の本店で現在も300年来の伝統的な木彫り技法を継承している楊柳青年画社である。いろいろと昆虫関係の資料を買い求め、主目的の天津自然博物館へ連れていってもらった。予想外に大きな博物館で、古代中国大陸に栄えた36万点にも及ぶ貴重な動植物の化石が陳列してある。特に建物の外周には恐竜化石をモチーフとしてあり大変規模が大きな博物館である。昆虫コーナーは「昆虫世界」とテーマがあり、近代化が進んだ世界的見地から構成された展示方法である。各地の昆虫館と全く変わりなく、少し物足りなさを感じずにはいられなかった。筆者としては上海自然博物館のように中国国産の昆虫展示を期待していただけに上海自然博物館のほうがより暖かみを覚えた。その後、隣にある天津市泥人形彩塑工作室を見学した。製作工程を案内してもらおうと、その素晴らしいさに驚嘆したが残念ながら昆虫関係の資料はミニのカマキリ凧があったくらいで少なかった。日本語の分かる係員と電話でやりとりし、行く予定にしていた天津風箏公司という凧屋が倒産したと聞き残念に思った。大きなカマキリ凧が是非ほしいので、天津凧の老舗である天津市風箏魏工藝品有限公司の風箏魏第3代、魏永珍氏に電話で連絡をとってもらった。春節の休日中にもかかわらず3代目凧師の魏女史はわざわざ倉庫の凧を調べてくださり有ったと持っ

天津自然博物館の入場券



写真 1



写真 2

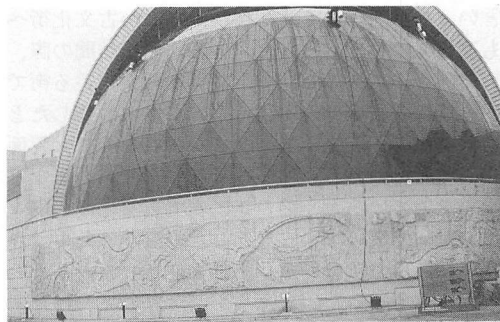


写真 3



写真 4



写真 5

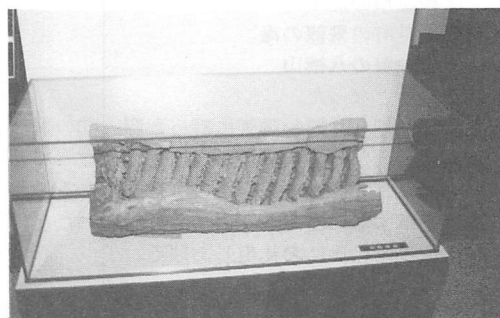


写真 6

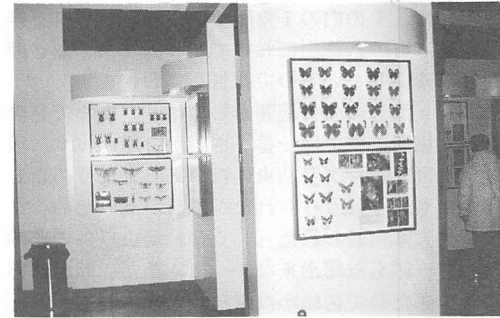


写真 1 天津自然博物館正面

写真 2 ドーム型の壁には恐竜のレリーフ

写真 3 昆虫コーナー入口

写真 4 昆虫の擬態と自己防衛についての解説コーナー

写真 5 オオスズメバチの巣の展示

写真 6 コウチュウ目、バッタ目、チョウ目の展示

てきたのはバッタ風。何とかカマキリがほしいと通じない中国語で話すと、中国の最後で最高の例の無いの言葉、没有(メイヨウ)がでた。仕方がないのでバッタ風と他の虫風を少々買い求めた。珍しいミツバチ風などないのかと漢字で書くと、これも没有との返事。これほど有名な風屋さんなのだからいろいろ揃えておいてほしかった。その後は昼食の時間となり南市食品街で有名な「狗不理包子」(ユウプーリーパオツ)を運転手さんと共々食した。食事後、時間が少なくなってきたので古文化街はいったことがあるので運転手さんに不要といったが、うまく通じなかったのか古文化街へも連れていってもらった。先般、北京訪問の際、天津ツアーに参加し、一番に行った文化香る街で、明・清代の古い街地を往時そのままに改修したところである。庶民の生活雑貨が中心なので大変面白い土産物がある。おかげで内面画の鼻煙壺など買い求めていると、前のツアーで古文化街の隅々まで聞いて買い求めようとしたが無かったカマキリ風があるではないか。それも逆さカマキリという形の風であった。またミツバチ風も見つけた。あれだけ前回調べたのに買えなかったのは時期のせいかもしれない。諦めていたのに運転手さんに感謝である。次は天津工芸美術服務部へ行ったが、

これといったものはなく、やがて友誼商城へ。上海にある友誼商城と同じく外国資本が入っているのか日本のデパートとそうは変わらない。やっと5階に中国らしい商品があり、ここでも筆者の好きなグッズが入手できた。購入を済ませ外を見るときもう暗闇の世界となっていた。やがてホテルへ送ってもらい運転手さんと昨日から乗りまわしているフォルクスワーゲンに感謝しつつチャーター料と僅かのチップを渡し、感謝の極み。多謝。

2月15日 昨日の資料入手により、本日の午前中は当てもなくホテル近くをうろつき散策をした。ホテルの近くは市政府の役所ばかりだが春節で休みが多いようだ。そこで巻貝などを採集し、やがてホテルへ。昼前、現地案内人がやってきて帰国の準備となり、また、あの運転手さんに空港まで送ってもらった。案内人の女史から説明を受け税関へ入ったところ、ちょっとしたハプニング。カバンの中味は何だということらしい。そういえば天津の観光客でこんなに多くの荷物を持って帰る人が少ないから不思議に思われたのに違いない。天津風と説明したが掛軸もあるとのことと別室へ。1箱だけ開けられ念入りに見られたが了解がとれ、無事機上の人となった。

播磨地方におけるアサギマダラの 新たな越冬産地 木村三郎

筆者は以前からアサギマダラの越冬産地を探索していた。その内の1カ所で、1998年11月21日神崎郡香寺町の八徳山において、3齢幼虫1頭と卵を20卵確認しているのを報告しておきます。

キジョランの生育範囲としては、いままで発表された場所の中では一番小さいかと思えます。現地ではアサギマダラ幼虫の特徴ある丸切りの新しい食痕も多く見うけられたが気温が高いため、クモ等の天敵に襲われたらしく3齢幼虫以外の若齢幼虫を一頭も確認出来なかった。ただ、卵が20卵確認できたので何頭かは越冬蛹化後、羽化するものと思われる。

他の播磨地方での越冬産地として、姫路市の書写山の六角、刀出側・夢前町の明神山北側・夢前

町と安富町にまたがる雪彦山が環境的に確認出来るのである。今回の確認により兵庫県における越冬産地として

- ①南光町の船越山
- ②加美町の高蔵山
- ③福崎町の七種山
- ④相生市の能下
- ⑤上月町の飛龍の滝
- ⑥香寺町の八徳山

の6カ所となった。

ただ、1998年9月植物調査に行った際、⑤の飛龍の滝の発生地が、材木運搬の索道基地となってしまう大変荒れてしまっていたのが残念である。

本稿を草するに当たり、いつもご指導いただいている広畑政巳氏にお礼申しあげる。